

# 「いま」の学校生活の中で みんなが大切だと思うこと

## 令和4年度～8年度 第4次四日市市学校教育ビジョン評価 (教職員アンケートからの成果と課題)

### 小中学校で勤務する教職員を対象にしたアンケートを実施 (n=1345)

第4次四日市市学校教育ビジョンの18項目について4件法にて回答  
「成果が出ていると感じる」「どちらかといえば成果が出ていると感じる」  
「どちらかといえば課題と感じる」「課題だと感じる」

### 評価の仕方

成果が出ているとした肯定的回答を1点とする  
85点以上を「A」、60点以上85点未満を「B」、60点未満を「C」とする  
成果・課題がみられた項目については、学校（校長会）からの意見を集約する。

項目	点数 (肯定的回答)	評価
①主体的・対話的で深い学びの実現	75.0点	B
②ICT活用による情報活用能力の育成	85.5点	A
③読解力・論理的思考力等、言語能力の育成	59.9点	C
④英語コミュニケーション能力の育成	78.1点	B
⑤人権教育や道徳教育の充実	80.4点	B
⑥読書活動の充実	73.5点	B

項目	点数 (肯定的回答)	評価
⑦体力・運動能力の向上	70.8点	B
⑧健康教育や食育の推進	85.2点	A
⑨キャリア教育の充実	79.8点	B
⑩四日市の資源を生かした教育の推進	76.6点	B
⑪持続可能な社会をめざす教育の充実	72.9点	B
⑫防災・安全教育の推進	87.6点	A
⑬特別支援教育の充実	80.2点	B
⑭多様な学びの保障・こどもの居場所づくり	79.9点	B
⑮生徒指導や問題行動への対応	83.3点	B
⑯学校業務の適正化（働き方改革）	52.4点	C
⑰学びの一体化の推進	69.4点	B
⑱地域と協働した学校づくり	87.5点	A

# 学校からの意見集約

## 【成果（評価Aの項目）】

### ②ICT活用による情報活用能力の育成

- デジタル学習教材やICT環境の整備により、効果的な授業づくりが可能となっている。
- GIGAスクールアドバイザーの支援で活用方法や校務効率化の具体策を得て、ICT活用が定着している。
- 教職員のICT活用力向上と児童生徒の情報活用能力育成に向けた取組が着実に進んでいる。

### ⑧健康教育や食育の推進

- 学校三師と連携しながら薬物乱用防止や性に関する学習等の取組の支援がなされている。
- 地元食材や記念日献立などの工夫で児童生徒の食への関心が高まっている。
- 栄養教諭による系統的かつ専門的な指導体制が整い、計画的な食育授業や掲示物の活用によって児童生徒の食育意識向上につながっている。

### ⑫防災・安全教育の推進

- 四日市学校防災安全対策ガイドラインや防災ノートの活用によって、防災教育の充実を図っている。
- 防災・交通安全教室を継続的に実施し、児童生徒の安全意識向上に取り組んでいる。
- 地域、保護者、警察と連携し、通学路の危険箇所確認や交通安全マップを作成し、安全に登下校するための環境整備を進めている。

### ⑱地域と協働した学校づくり

- コミュニティスクールの運営協議会を活用し、地域の多様な人材や資源と連携した学校運営を推進している。
- 地域のゲストティーチャーやボランティアの参加で特色ある教育活動が展開され、学校評価を基にPDCAサイクルを回す体制が整ってきている。
- 研修会で他校と情報共有が図られ、地域協働による新たな取組が着実に進み、教職員の支援にもつながっている。

# 学校からの意見集約

---

## 【課題（評価Cの項目）】

### ③読解力・論理的思考力等、言語能力の育成

- 手引き等で言語能力の育成に向けた授業づくりの工夫が示されており、その重要性については理解はしているが、具体的にどのような身に付けていけばよいのかイメージが持てていない。
- 国語、外国語などの言語を扱う教科とそれ以外の教科との違いや指導者の経験年数の差から、学校として教科横断的、系統的な言語能力の育成につなげていない。
- 日常的な授業では一方的な説明が多くなってしまい、児童生徒の意見や考えを表現する活動に取り組めず、言語能力の育成に至っていない。

### ⑯学校業務の適正化（働き方改革）

- 学校業務アシスタントをはじめ多くの専門スタッフを配置しているものの、依然として業務量は多く残っているため、教職員数の増員や業務の効率化を進める必要がある。
- ICT機器導入によって新たな業務負担が発生している。まだ教職員間でICTスキルの差もあるため、継続した育成・支援が必要である。
- 部活動の地域展開を推進する等、教職員が担うべき業務を精選し、質の高い教育を実現するため、負担をさらに軽減していく必要がある。